

【政策目標⑤】 減災の観点も重視した農業災害の防止による安全・安心な地域社会の形成への貢献

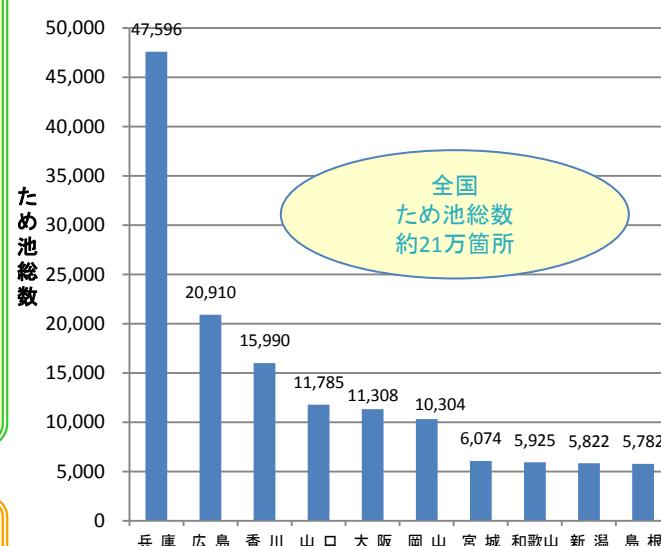
実施状況

- 防災情報伝達体制やハザードマップの整備などのソフト対策を2,409箇所で実施とともに、ため池のハード整備を982地区で実施。
- 東日本大震災を契機に、ため池の決壊等のリスクを軽減するため、今後ともハード・ソフトの一体的対策を推進。

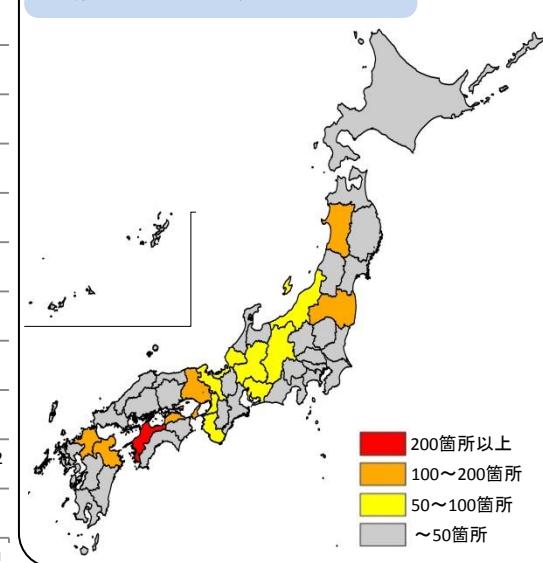
目指す成果の達成状況



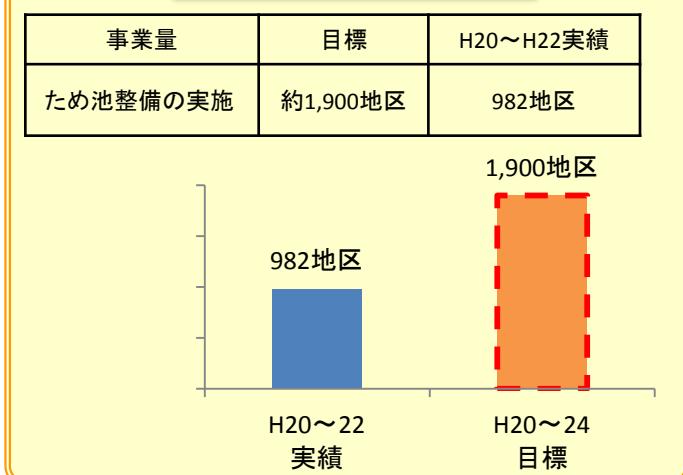
ため池総数(上位10府県)



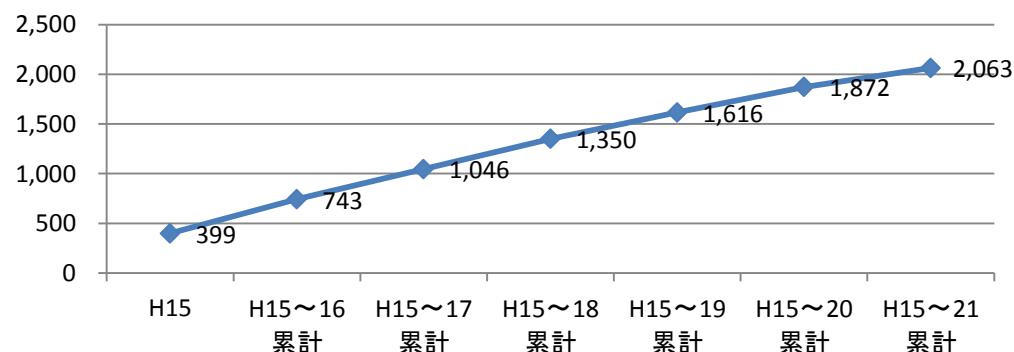
防災伝達体制やハザードマップが整備されたため池数



事業量の進捗状況



農業農村整備事業(国営及び補助)で整備されたため池数(H15～21)



事業の概要

事業名:ため池等農地災害危機管理対策事業

被害想定面積:38.6ha 事業工期:H19~

主要工事:洪水吐9箇所、堤体保護整備7箇所、斜樋整備10箇所、ハザードマップ作成2箇所、リアルタイムため池水位計1箇所

取組の概要

ハザードマップと緊急連絡体制



適切な日常管理と
緊急時の対応

日常管理

- 堤体の草刈りを定期的に行い、ため池法面の亀裂と漏水の有無を確認。
- 洪水吐周辺の清掃。
- 年に1回ため池の水を抜き、空にした状態で普段点検できない部分を確認。

緊急対応

- ため池からの洪水の排除。
- 河川からため池への水の流入防止。

事業の効果

ハード整備を補完するソフト対策により、災害の未然防止と災害発生時の被害を軽減。